

30年11月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 11月1日～ 30年11月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
入荷動向	スギ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	ヒノキ	△ 16.7	△ 33.3	△ 16.7
	カラマツ	12.5	25.0	0.0
	トドマツ	33.3	33.3	33.3
消費動向	スギ	△ 25.0	△ 25.0	△ 12.5
	ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	0.0
	カラマツ	12.5	25.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	16.7
在庫動向	スギ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	12.5	25.0	0.0
	トドマツ	16.7	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ国産原木の入荷動向は3カ月連続減少に。カラマツは11月、12月の増加から1月は横ばいに。トドマツは3カ月連続増加。

・スギ国産原木の消費動向は3カ月連続減少。ヒノキは11月、12月の減少から1月は横ばいに。カラマツは11月、12月の増加から1月は横ばいに。トドマツは11月、12月の横ばいから1月は増加に。

・スギ国産原木の在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。カラマツは11月、12月の増加から1月は横ばいに。トドマツは11月の増加から12月、1月は横ばいに。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
スギ	12.5	12.5	12.5
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	37.5	25.0	25.0
米マツ	0.0	50.0	50.0
北洋カラマツ	50.0	50.0	50.0
その他	25.0	25.0	25.0

・合板用国産原木の購入価格動向はスギ、カラマツ、その他(トドマツ)は強含み。ヒノキは横ばい推移。

・外材は北洋カラマツ、北洋カラマツとも強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・冬季は降雪や林道・一般道の凍結の影響で丸太の搬出や船舶の出航が難しくなるため若干の入荷減を予想。冬期は気温が低く乾燥効率が落ちるため、スギより乾燥しやすいカラマツの消費増が見込まれる。在庫はカラマツの消費増に伴い若干減る見通し。

・カラマツ、トドマツが入荷難。年末年始にかけ休日が多いため消費減も。在庫はトドマツ減少。

・スギ、ヒノキ丸太は計画数量に満たず入荷減少。スギ丸太の入荷減少によりカラマツ消費増加。在庫はカラマツのみ増加。

・年末年始でスギ、ヒノキとも入荷減少。消費は外気温が下がり乾燥量も減少していく。在庫はヒノキを意識的に増やしていく。

(原木価格)

・A材、C材は強含み。B材は安定している。

・スギ、カラマツ丸太一部の地域で上昇。

・購入価格はスギ、ヒノキとも横ばいキープ。

・全ての原木において強含み。今後さらに心配。

30年11月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
生産動向	構造用(9mm)	25.0	12.5	12.5
	〃 (12mm)	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	〃 (15mm)	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	〃 (24mm)	10.0	0.0	0.0
	〃 (28mm)	20.0	10.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	37.5	12.5	0.0
	〃 (12mm)	20.0	0.0	△ 10.0
	〃 (15mm)	10.0	△ 10.0	△ 10.0
	〃 (24mm)	20.0	0.0	△ 10.0
	〃 (28mm)	30.0	10.0	△ 10.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 37.5	△ 37.5	0.0
	〃 (12mm)	△ 20.0	△ 20.0	10.0
	〃 (15mm)	△ 10.0	△ 10.0	10.0
	〃 (24mm)	△ 20.0	△ 20.0	0.0
	〃 (28mm)	△ 30.0	△ 30.0	10.0

・合板工場の生産動向は9mmは3カ月連続増加。12mm、15mmは11月の横ばいから12月、1月は減少に。24mmは11月の増加から12月、1月は横ばいに。28mmは11月、12月の増加から1月は横ばいに。

・出荷動向は9mmは11月、12月の増加から1月は横ばいに。12mm、24mmは11月の増加から12月は横ばい、1月は減少に。15mmは11月の増加から12月、1月は減少に。28mmは11月、12月の増加から1月は減少に。

・在庫動向は9、24mmは11月、12月の減少から1月は横ばいに。12mm、15mm、28mmは11月、12月の減少から1月は増加に。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
構造用(9mm)		12.5	12.5	△ 12.5
〃 (12mm)		10.0	10.0	△ 10.0
〃 (15mm)		10.0	0.0	△ 10.0
〃 (24mm)		10.0	10.0	0.0
〃 (28mm)		10.0	10.0	0.0

・出荷価格動向は11月、12月の強含みから1月は弱含みに。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・生産はアイテムの比率の変更はない。出荷は全体的に良くなってきた。10月後半まで在庫は増えていたが、出荷が順調で11月は減る見込み。
- ・年内は日々フル生産だが、休日及び働き方改革にて自然減。プレカット中心に引合い多く年内は出荷増。出荷多いため各厚みで在庫減。
- ・計画通り生産。出荷は10月多少増加しつつも11月以降横ばい。在庫もほぼ横ばい。
- ・稼働日数による生産となる。流通から先の出荷が流れ始めると一気に動き出すものと予想。在庫は低水準のまま推移。

(構造用合板の価格)

- ・受注は秋需で多かったが、物流が滞り出荷が鈍っていた。11月に入り荷が動き出し雪が降るまでは順調と思われる。
- ・建値を下回る単価が払拭され、口銭泣きも無くなり、今後価格は原料、運賃等のアップにより上昇へ。
 - ・出荷価格はほぼ横ばい。
- ・価格は横ばい。原木価格、輸送コスト次第では価格見直しもあり得る。